

ルーツは千年前?! 日本の「伝統模様」

伝統工芸品や着物、年賀状でも目にする日本の伝統文様。そのルーツは平安時代だと言われています。

実は平安以前から、遣唐使などによって海外から様々な模様が日本に伝わっていたと言われています。

これが平安時代に**独自のデザイン**に進化し、貴族の間で流行し始めたと考えられています。その後、時代の変化と共に模様も発展を続け、現代に受け継がれてきたのだそうです。

模様にはそれぞれ名前や意味があるので、その一部をご紹介します。

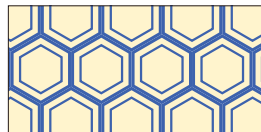
青海波 (せいがいは)

穏やかに広がる波を用い「平穩、繁栄」などを表現。



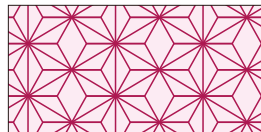
亀甲 (きっこう)

「長寿」の象徴、亀の甲羅がモチーフ。中に別の紋が入ることも。



麻の葉 (あさのは)

成長が早い麻の葉に似せ「子供の健やかな成長」を願った模様。



七宝繋ぎ (しっぽうつなぎ)

円を重ね「円満や調和」。また四方へ永遠に繋がり、子孫繁栄の意味も。

